

南箕輪村むらづくり（委員）：会（第8回）会議録

令和6年10月8日（火）

午後7時～午後9時00分

出席報告【出席者 計26名】	
むらづくり委員会 (18名)	山岡 勉 委員 長谷川 義隆 委員 加藤 直樹 委員 唐木 茂人 委員 酒井 きよみ 委員 清水 真知子 委員 伊澤 武善 委員 清水 克俊 委員 足立 芳夫 委員（会長） 小椋 信子 委員 菅家 美果 委員 千 菊夫 委員 富岡 順子 委員 橋場 麻衣子 委員 入倉 眞佐子 委員（会長代理） 松田 聖一 委員 稲生 正徳 委員 三澤 聡 委員
事務局（3名）	地域づくり推進課長 高橋 地域づくり推進課 企画係長 横道 地域づくり推進課 企画係 清水
説明者（5名）	地域づくり推進課職員 こども課職員 建設水道課職員
欠席者（10名）	高木 武 委員 伊久間 美昭 委員 北原 泰司 委員 田口 和弘 委員 唐澤 成江 委員 平野 幸代 委員 宮坂 大樹 委員 原 和彦 委員 井口 千鶴 委員 吉川 つづり 委員

1. 開会 会長代理

2. 会長あいさつ 足立会長

雨の中、また急に肌寒くなり秋本番となってきた。本日のむらづくり委員会では創生総合戦略の検証の1回目ということで円滑なご審議をいただきたい。

3. 協議事項

(1) 南箕輪村創生総合戦略の検証について

- ① 村創成総合戦略の検証の進め方について 事務局より説明（資料1）
- ② 村創生総合戦略の検証について 村役場担当者よりそれぞれ説明（資料2）

②-1 企画係（No.10） 地域づくり推進課より説明

- ・ No.10 女性のための研修制度開催数 達成率 171.4% 自己判定 A

【質疑・意見】

（委員）：開催数 12 回ということで非常に素晴らしいと思うが、座学なのか Web のセミナーなのかと平均の参加人数を教えてください。

（担当課）：女性再就職支援の委託事業については、箕輪町と南箕輪村で共同で行っている事業になる。村の施設と、箕輪町の施設の 2 ヶ所で実施しており、ウェブではなく座学になる。専門のセミナー講師が来て、毎回 10 人から 20 人ぐらいの間の出席者となっている。また、村独自でも地域おこし協力隊などに協力いただいて、パソコンの基礎講座といったセミナーも実施している。

（委員）：女性のための研修は私も関心があってよく見ている。相談員とも話すこともあるが、多様化という意味で外国ルーツのお母さんたちも就職のことで私も相談を受けている。多言語での支援という考えはあるか。また、多言語での支援の実績はあるか。

（担当課）：昨年度に関して多言語でのこのような研修支援の実績はない。検討させていただきたい。

（委員）：回数的には増えている。大変素晴らしいことだと思う。評価するにあたって、参加者の人数は増えているかどうか教えてください。

（担当課）：それぞれの回に定員があるので定員以上の出席者は増やしていないが、回数増えた分だけ機会も増えており、その分の全体人数は増えている。

（委員）：女性のためとのことだが、女性が就職するためのセミナーなのか、女性が働きやすくするためのセミナーなのか。また、セミナーの内容は最初から決まっているのか、集まった人たちの要望等聞いて決めるのか。

（担当課）：基本的には女性の就業支援なので就職するためのセミナーになっている。また、女性限定の合同会社説明会も実施している。セミナーの内容については年度当初に村と委託事業者で相談して内容決めている。なお、セミナーごとにアンケートを取っており、実施内容の検討材料としている。

（委員）：女性が就職しようと思ったとき、ハローワークや派遣会社に最初に行くと思う。村で行っている事業は周知されているのか。また、事業費に対しての年間の就業人数 30 人。1 人当たり 30 万くらいの税金がかかっている。少し高いとも思う。対象の人数、就職する人数が増えれば、1 人当たりの投入金額も下がると思うのでもっと周知をしっかりとって就業できる方を増やしていった方

がよいのでは。

(担当課)：子育て、介護をしながらの働き方を希望する方などについて、ハローワークから村の事業を紹介していただくことも結構ある。なお、事業の実施に関しては事業費の半分を国の補助金で賄っている。広報に関してはまだまだできているのでしっかりと行って行きたい。

②-2 地域振興係 (No.8、9) 地域づくり推進課より説明

- ・ No.8 就労情報へのアクセス数 達成率 55.0% 自己判定 B
- ・ No.9 就労に必要な学習会の開催数 達成率 175.0% 自己判定 A

(委員)：No.8 に関して、令和元年度は村独自で行っていたものがその後上伊那広域連合の数値に移ったがその背景は？

(担当課)：村独自で行っていても費用対効果がそれほど見込めないといったところがあったと思う。上伊那広域連合にサイトもあり、今は相談の関係も、上伊那や伊那定住自立圏の市町村と合わせて行うことが多くなってきている。その方が、効果が高く独自で行うより費用は抑えられていると思う。

(委員)：上伊那の全体として就労を多くしたいという狙いもあるということよろしいか。

(担当課)：上伊那全体に若者が戻ってきてほしいということで、村としては、今は全体で活動している。

(委員)：指標の数値は、今は上伊那全体のサイトのアクセス数という解釈でよいか。

(担当課)：そのとおり。

(委員)：この活動の達成率に意味はあるのか。上伊那全体の数字を村が評価するのはどうか。

(会長)：昨年も同じ指摘があった。当初数値目標を設定したときは村独自の事業だったが、途中から上伊那広域連合の数値となっており村の数値は把握できなくなっている。本当は評価ができないような項目になっているので、他の項目と違った特殊性があるということをご理解いただければと思う。

②-3 地域振興係 (No.14、15、24) 地域づくり推進課より説明

- ・ No.14 移住、定住情報へのアクセス数 達成率 163.9% 自己判定 A
- ・ No.15 持ち家世帯の区加入率 達成率 95.0% 自己判定 C
- ・ No.24 出会いイベントの開催数 達成率 50.0% 自己判定 B

(委員)：No.14 のアクセス数は、南箕輪村のサイトへのアクセス数でよいか。

(担当課)：村独自サイトへのアクセス数

(委員)：これでどのくらい移住定住が実現したか分かれば。

(担当課)：令和5年度の数値となるが、村のお試し住宅を使って移住相談を受けた方が30組。結果として5世帯12人の方が村へ住所を移された。サイトからというのは分からないが、お試し住宅を利用する方は、サイトをみてきた方が多いと思う。

(委員)：No.15 の転入者および転居者に窓口で区の概要等を説明する、地区ごとのパンフレット作成を行ったことについて、外国人住民が南箕輪村で持ち家を建てて相談は箕輪町の相談員のところに来るという人を何人も知っている。このパンフレットはどんな言語で作られたか？

(担当課)：作成した言語については日本語のみとなっている。多言語化についてはこれからの課題として考えていきたい。

(委員)：No.15 の数値について、村全体の把握としては分かるが、区によって特徴や傾向が違ってくる。区が対策を相談するような仕組み作りや村と区が連携していく活動が今後必要になってくると感じる。本来その区の独自の実情に合った対応策や活動を地域づくり推進課として区と連携を取って実施しているのかどうかお聞きしたい。

(担当課) 区長会の中で区の課題や意見交換、他地区の参考になることを話す機会はあるが、村で独自に区の課題の解決をサポートしていくところまで踏み込めていないと感じている。それぞれの区で特徴があり、区の行事や雰囲気、区費なども様々なので、本当に今考えている最中。集落支援員なども活用し、区のサポートに入れるような形をとりたいと考えている。

(委員)：なぜ区に入らなければいけないのかという住民からの問いもあり、これに対して答えられるようなことを考えていかなければいけないと感じる。

(委員)：区、組の役が多くて組から抜けていく世帯が多い。組から抜けても普通に暮らしていけるという考えが非常に多いと感じる。「この地区はこういうところがいいんだよ」という宣伝材料があればよいのだが。

(担当課)：現在行われている自治会検討委員会の中でも、まさにその辺りをメリット、デメリットとして整理検討し、また、区の目標、目的とは何かということも検討しているところ。

(委員)：外国語のことで、外国籍の方が学校のプリント読めなくて困っている現状を見たことがある。現在 AI も普及しており、プリントなど事前に翻訳しておくことも良いのでは。

(担当課)：行政の申請書は行政特有の難しい言葉もあり、最終的に支援員による翻訳や通訳が必要になるが、ある程度の文字は翻訳できるので、活用については検討したい。

(委員)：区のパンフレットもホームページ上に PDF や Word で貼り付けてあれば AI 翻訳で手間がかからずに翻訳できると思うので参考にしてほしい。

②－ 4 母子保健係 (No.20、21) こども課より説明

- ・ No.20 切れ目のない支援のための連携会議 達成率 100.0% 自己判定 A
- ・ No.21 乳幼児健診受診率 達成率 100.0% 自己判定 A

(委員)：切れ目のない支援のための連携会議、切れ目のないということはすごく大事だとは思いますが、外国ルーツの人たちは上の学校への進学の情報もないし、書類も書けない。乳幼児健診についても外国ルーツのお母さんや子どもたちは様々な問題を抱え孤立しているので、ぜひ多言語支援というのも視野に入れていただきたい。

(委員)：乳幼児健診受診率で 99.5%まで達成しているがあと 0.5%の要因は？

(担当課)：お子さんの具合が悪いなどで受診ができなかったケースがある。その後のフォローとしては家庭訪問などをして関わりを持っている。

(委員)：No.20 に関して、ヤングケアラーの子どもがどのくらいいるのかと、それに対してどういった対応をされているか教えてほしい。

(担当課)：昨年アンケート取ったところでは、ヤングケアラーはいないとの結果となったが、潜在的なところではいると思っているので、教育委員会、学校と連携を密にしていきたい。

(委員) : No.20 に関して、対象は 0 歳から 18 歳でよい。乳幼児から保育園、小学校低学年の子どもへの対応がメインに感じるが、中学生、高校生への支援にも目を向けてほしい。例えば、送り迎えでその時間就業できない親もいる。伊那市は送迎用タクシーなどがあると聞いているが、家庭の事情によって教育の格差がなくなるよう支援が必要と感じる。

(担当課) : 義務教育を卒業してから高校ないし違うステージへ進むケースについては、こども課でもなかなか関わっていないので、今後、教育委員会とも連携しながら行っていきたい。

(委員) : 外国人通訳に関して、IT 化が進んでいる中、毎回通訳を頼むのではなく翻訳機等で対応可能な部分は翻訳機を使用してはどうか。

(担当課) : 現在、無料でダウンロードできる通訳アプリもあり、タブレットを用意すれば対応できるものもある。窓口や検診などでは使用を検討していきたい。なお、相談事業に関しては翻訳アプリの精度の問題もあり、今後も通訳が必要と感じている。

②- 5 子育て支援係 (No.23) こども課より説明

- ・ No.23 ノーテレビ・ノーゲームの促進実施保育園数 達成率 100.0% 自己判定 A

【質疑・意見】なし

②- 6 建設管理係 (No.34、36) 建設水道課より説明

- ・ No.34 除雪ボランティアの登録者数 達成率 100.0% 自己判定 A
- ・ No.36 河川愛護活動の実施回数 達成率 91.7% 自己判定 B

(委員) : No.36 に関して、温暖化なのか気候の変動なのか、河川、道路脇の雑草がすごく多い。また、アレチウリなどのつる草も多く覆いかぶさっている。ごみを捨てられない環境のために整備することが重要であり、環境を良くするためにもっと目を向けてほしい。

(委員) : No.34、36 に関して、現在の年齢構成は。もし高齢の方が多いとすると、その方たちが抜けた後も続けていけられるような仕組みとなっているか。

(担当課) : No.34 に関しては、年齢層まで把握していないが、約半数は 60 歳以上と思われる。新しく除雪ボランティアを登録してもらえよう、令和 4 年度に除雪機械の補助に関して上限 20 万円から 40 万円に増やしたところ。順調に隊員も増えている。No.36 の河川愛護活動に関して、年齢層の詳細は団体等から出していないが、担当課の感覚になるが高齢者の方が多いという状況。協働で地元の道路河川を管理していただくということを目的としており、村としても若い方に参加していただけるような PR も検討していきたい。

②- 7 下水道係 (No.11、12) 建設水道課より説明

- ・ No.11 下水道普及率 達成率 100% 自己判定 A
- ・ No.12 水洗化率 達成率 99.0% 自己判定 B

(委員) : No.11 に関して、令和 4 年度事業費は 6,000 万円ほどだったが、令和 5 年度は 600 万程度。100% となりこれ以上進める必要はなくなったのか。また、耐震化等について全国的に話題となっているがこの事業に含まれているのか。

(担当課) : 令和 4 年度はまだ本管が通ってないところがあり、そこを整備した関係で工事費が大きくなっていた。今は基本的には面的整備は終わったので、新たに家が新築されて、そこに環境がまだないようなところを敷設していく工事の対応となっている。そのため令和 5 年度の事業費は 600 万円ほどとなった。耐震化工事はこの指標と直接関係しないため別の事業で行っている。

(委員) : 下水道普及率 100% はすばらしいこと。南箕輪村として相当 P R できるもの。近隣市町村、長野県の状況などどうか。

(委員) : 調べたところ、令和 5 年度末で長野県全体が 85.5% であった。

(事務局) : 長野県内 77 市町村あるうち 100% となっているのが 9 市町村となっている。

(説明全体を通しての意見等)

(委員) : KPI は大きな目標のなかの手段の結果だと思っている。総合戦略で基本目標が 4 つありそれぞれ K P I の上に大きな数値目標があるが、次回の委員会で基本目標の数値目標についても報告していただければ。

(事務局) 合計特殊出生率やアンケート結果などから数値目標の指標としているものについては、5 年に一度などの数値もあるので各年度の数字は出せないが、出ている数値について次回報告する。

4. その他

今後の日程について (事務局) : より説明

次回開催の第 9 回むらづくり委員会について

10 月 22 日 (火) 19 時～ 役場講堂 内容 : 総合戦略の K P I 説明 2 回目

5. 閉会 会長代理